HITACHI
Inspire the Next

取扱説明書

日立 温風 クリアヒーター
〈密閉式石油ストーブ〉

KH-J90形

このたびは、日立温風クリアヒーターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
ご使用の際はこの取扱説明書をよくお読みになり、ご家族全員で正しくご使用ください。
なお、お読みになった後は保証書、ご相談窓口一覧表とともに、大切に保存してください。

もくじ

安全のため必ずお守りください

安全に正しくお使いいただくために、この取扱説明書および製品への表示では、ご使用になる方への危害や財産への損害を未然に防止するために、次のように区分して表示しています。
その内容をよく理解してからご使用ください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示について

この絵表示は「禁止」事項を示しています。

この絵表示は必ず実行していただく「強制」内容です。

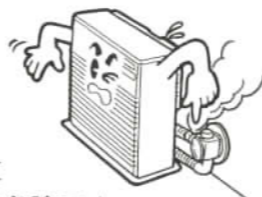
⚠警告

ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。

●火災の原因になります。

外れ危険

給排気筒(管、ホース)が正しく接続されているか点検してください。

●外れていると運転中に排ガスが室内にもれて危険です。

給排気筒トップ閉そく危険

積雪の多い地方では、給排気筒トップが雪でふさがれていないことを確認してください。
ふさがれているときは除雪してください。

●運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

温風吹出口をふさがない

衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。

●衣類、紙などでふさぐと火災の原因になります。

スプレー缶厳禁

スプレー缶を温風のあたるところに放置しないでください。

●熱でスプレー缶の爆発や火災のおそれがあります。

据付けや移動は販売店へ依頼する

据付けや移動は、必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

●ご自分で据付け工事をされ不備があると、感電や火災の原因になります。

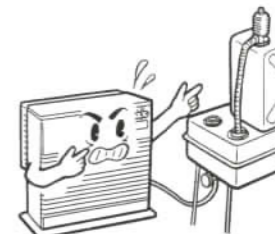
⚠注意

カーテン・可燃物近接禁止

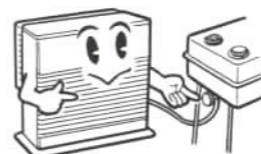
カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。
また、給排気筒にも可燃物が触れないようにしてください。

●火災が発生するおそれがあります。

給油時消火

給油は、必ず消火してから行ってください。

●火災のおそれがあります。

油もれ確認

本体の下(置台の上)、油タンク、ゴム製送油管やその接続部等に、油もれや油だまりがないか確かめてください。

●火災のおそれがあります。

異常時使用禁止

万一異常を感じたときは、使用しないでください。

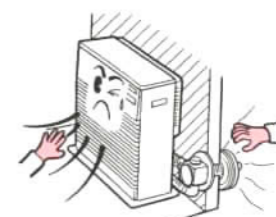
●異常燃焼のおそれがあります。
●使用中に異常を感じたり、地震などの緊急の場合は、あわてずに消火してください。

温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたらないでください。特に乳幼児やご自分で温度調節のできない方がお使いのときは、十分に注意してください。

●低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、温風吹出口や給排気筒などの高温部に手など触れないでください。

●やけどのおそれがあります。

分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。

●不完全な修理は危険です。

改造使用の禁止

改造して使用しないでください。
また、本体や給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取付けないでください。

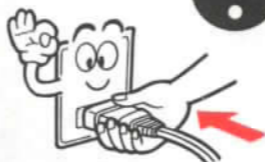
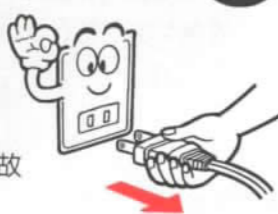
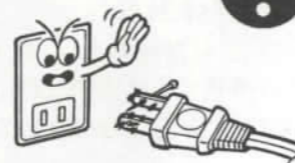
●火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。

⚠注意

電源コードを傷めない
電源コードに無理な力を加えたり、物を載せたりしないでください。
電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。

●火災や感電の原因になります。

電源プラグは確実に差し込む
電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。

●火災の原因になります。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く
長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
●火災や予想しない事故の原因になります。

電源プラグのお手入れを
ときどきは電源プラグを抜き、ほこりや金属物などを除去してください。
●ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり、火災の原因になります。

給排気筒の周辺に障害物・可燃物・危険物などがないこと
また給排気筒の先端が蜂などの巣や、ビニール袋などでふさがれていないこと。

●不完全燃焼や火災の原因になります。

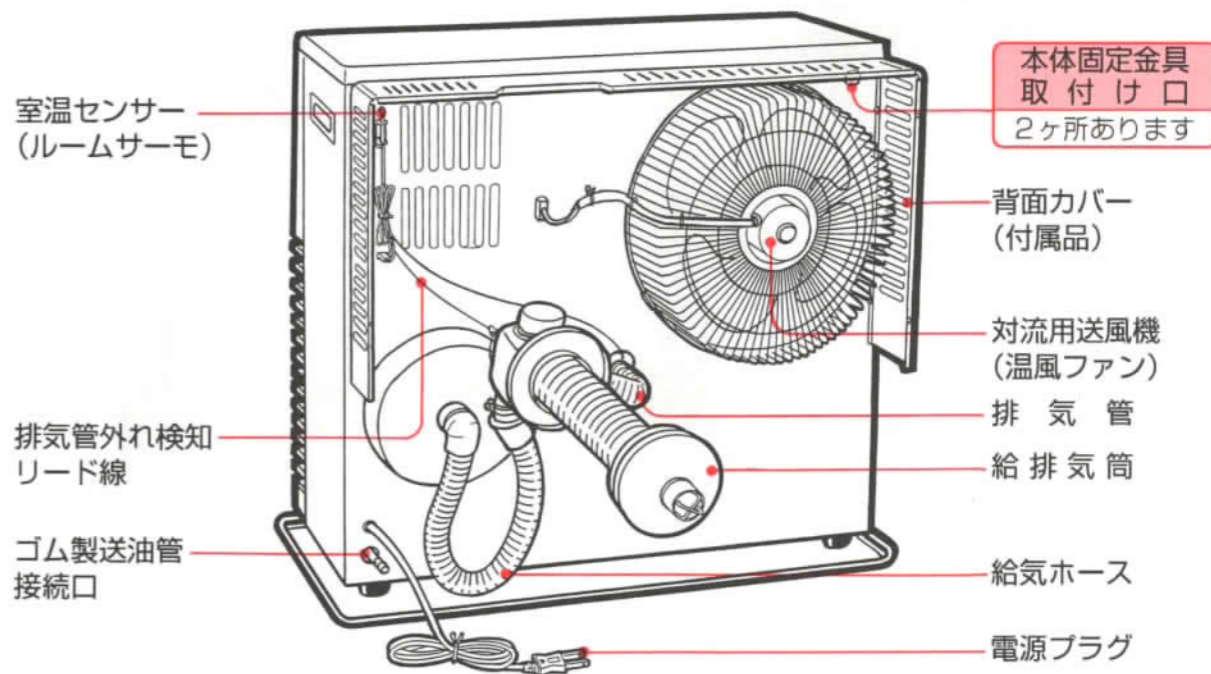
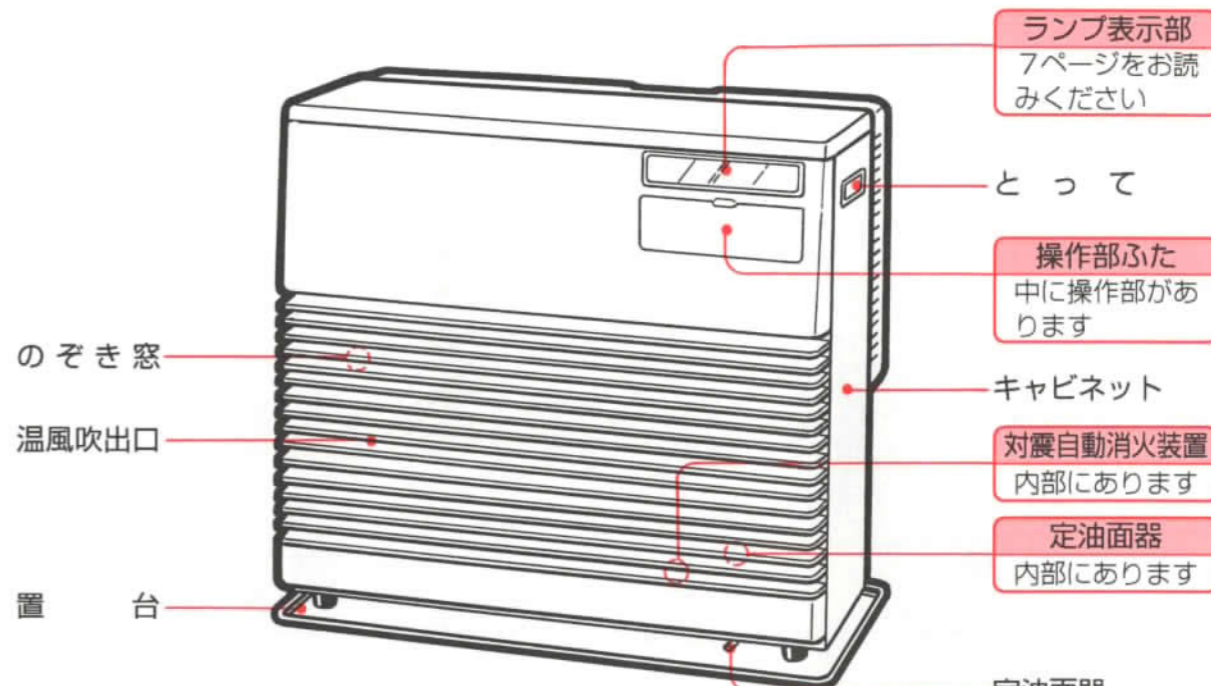
高地(標高1000m以上)では使用できません
●不完全燃焼の原因になります。

腰をかけたり、物をのせない
特に燃えやすいものや、花びんなど水のこぼれやすい物をのせないでください。
●本体が変形したり、感電、火災、故障等の原因になります。

温風吹出口に物を入れない
温風吹出口など開口部に針金等の金属や紙等の燃えやすいものを入れないでください。
●感電や火災の原因になります。

お願い
●熱に弱いじゅうたんやフローリング・床の上で長時間使用すると、変色したりそり返ることがあります。熱に強いポリエステル系のマットなどをしいてください。
●このストーブを使用すると、お部屋が乾燥し、健康上および家屋や家具等に悪い影響を与えることがあります。
乾燥する場合は、加湿器をお求めのうえ、併用してください。

各部のなまえ …➡

外観図

操作部のなまえとはたらき

操作部ふたを開けると内部に操作部があります。
操作のしかたについて詳しくは「使いかた」の10〜15ページをご覧ください。

切ボタン

消火するとき押します。

［押すと「ピッ」と音がします］

運転ボタン

点火(運転)するとき押します

［押すと「ピッ」と音がします］

セーブセレクトボタン（押すと「ピッ」と音がします）

- 「運転ボタン」を押してから操作してください。（このボタンを押しただけでは受付けません。）
- 「おさえめ」と「ゆるやか」運転は、一度セットすると、停電などで電源が切れないかぎり記憶されていますが、「ミニ暖」運転は消火するたびにセットは解除されます。
- セットの解除はもう一度ボタンを押します。

おさえめボタン	ゆるやかボタン	ミニ暖ボタン
ボタンを押しますと自動消火↔自動点火の制御をして室温を調節し、むだな暖房をおさえます。(12ページ参照)	ボタンを押しますと「強・中」燃焼をカットした「弱・微」燃焼の制御となり、寒暖差の少ない暖房が得られます。(12ページ参照)	ボタンを押しますと室温、設定室温に関係なく微燃焼、微温風で運転します。(12ページ参照)

おやすみタイマーボタン

夜おやすみになるときなど、自動的に運転を停止させたいときに押します。
押すと1時間後に自動消火します。

［押すと「ピッ」と音がします］

おはようタイマーボタン

朝など自動的に運転させたいときに押します。

［セットした時刻に部屋が暖かくなります。］

［押すと「ピッ」と音がします］

室温調節ボタン（押すと「ピッ」と音がします）

設定室温(希望の室温)をセットするとき押します。
「上げ」ボタン…室温を上げたいとき押します。
「下げ」ボタン…室温を下げたいとき押します。

［設定室温は8℃〜32℃の範囲がセットできます。］

時刻切替えスイッチ／時ボタン／分ボタン

「現在時刻」をセットするときと、「タイマー運転時刻」をセットしたり、セットしなおすときに操作します。(13ページ参照)
通常は「時刻切替えスイッチ」を「時計／室温」の位置にしておきます。

［時・分ボタンを押すと「ピッ」と音がします。］

ランプのなまえと表示の見かた

運転ランプ

点灯…運転中です。

- おさえめ運転中は火が消えていても点灯しています。

おやすみタイマーランプ

点灯…おやすみタイマー運転中です。

［セット後1時間で消灯します。］

おはようタイマーランプ

点灯…おはようタイマー作動中です。

［セット時刻になると消灯します］

セーブセレクトランプ

セーブセレクトの各ボタンでセットされた運転システムを表示します。

全ランプ消灯

［セーブセレクト運転はセットされていません。］

「おさえめ」ランプ点灯

［おさえめ運転をします。］

「ゆるやか」ランプ点灯

［ゆるやか運転をします。］

「ミニ暖」ランプ点灯

［ミニ暖運転をします。］

「おさえめ」「ゆるやか」ランプ点灯

［おさえめ、ゆるやかの組合わせ運転をします。］

デジタル表示

①〜⑤の異なった機能を数値で表示します。

①運転中は設定室温(セットした希望の室温)と現在の室温を表示します。

室温 20 10　設定室温：20℃　現在室温：10℃

②停止時は現在の時刻を表示します。

午後 3:30　午後3時30分

③おはようタイマーボタンを押すと5秒間ほど、おはようタイマーセット時刻を表示します。

午前 6:20　午前6時20分

その後は現在の時刻を表示します。

④安全装置が異常を検知して消火したとき1、2、5の数値を表示します。

2　対震自動消火装置、過熱防止サーモが作動しました。(16ページ参照)

⑤器具が故障したとき運転ボタンを押すとEと数値(エラー)を表示します。

故障箇所を表示しています。修理を依頼するときにお知らせください。

使用前の準備

燃料

■燃料は灯油(JIS1号灯油)を必ず使用してください。

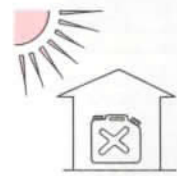
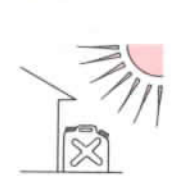
変質灯油、汚れた灯油、水のまじった灯油、ガソリンなどは、絶対に使用しないでください。
●ガソリン、シンナーなど、揮発性の高いものを使用しますと、火災の原因になります。

灯油とガソリンの見分けかた

指先につけて息を吹きかけます。
●火の気のないところでおこなってください。

灯油の保管のしかた

灯油は、必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。

○ 良い保管	× 悪い保管
直射日光、雨水があたらず、火気のない冷暗所に保管	直射日光、雨水があたるベランダなどでの保管

■変質灯油・不純灯油とは

変質灯油

●昨シーズンより持ち越したもの。
●日光のあたる場所で長期間保管したもの。
●高温の場所で長期間保管したもの。
●容器のふたを開けて長期間保管したもの。
●乳白色のポリ容器で保管したもの
ひどく変質した灯油は、うす黄色味がかったり、すっぱいにおいがします。

不純灯油

●灯油以外の油（ガソリン・軽油・食用油など）がほんの少しでも混入した灯油。
●水やごみが混入した灯油。
●灯油添加剤、燃焼促進剤などを添加した灯油。

■変質灯油・不純灯油を使用すると

●点火しない。
●使用中に消火する。
●炎が伸び、スス(煙)が出るなどの原因になります。

■万一変質灯油・不純灯油を使ったときの処置

●油タンクの灯油をきれいに抜きとった後、良質の灯油を給油してください。
●悪い灯油を抜きとっても効果がないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

給油

⚠注意

給油時消火

給油は必ず消火してから行ってください。
●燃焼中の給油は火災のおそれがあります。

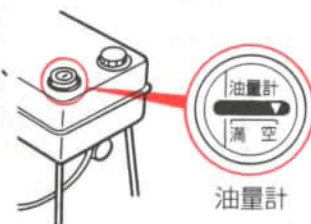
1 油タンクの給油口ふたを外し、油量計の指針が「満」位置になるまで給油してください。

●「満」以上は入れないでください。

2 給油口ふたをしっかりと閉め、送油バルブを開いてください。

●給油口ふたは確実に閉めてください。
●こぼれた灯油はふきとってください。

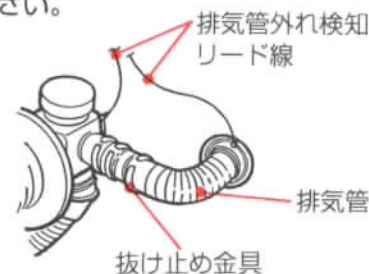
3 油タンクは空にしないようにしてください。

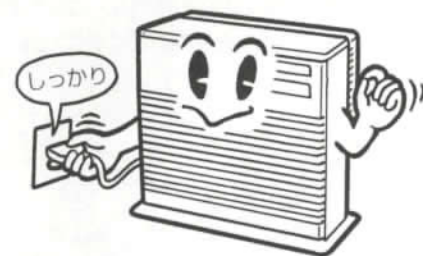
油量計が空になりましたら、給油してください。

●油タンクが完全に空になってから給油しますと、ゴム製送油管内に空気だまりができ、正常に油が流れません。

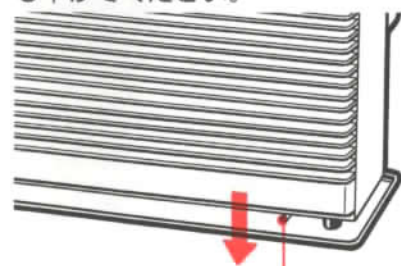
点火前の準備と確認

⚠警告

外れ危険

給排気筒および排気管の接続箇所が正しく確実に接続され、抜け止め金具で正しく固定されているか、また排気管外れ検知リード線が確実に接続されているか確認してください。

■電源との接続

電源プラグを、コンセント(一般家庭用100V)にしっかり差し込んでください。

■定油面器のセット

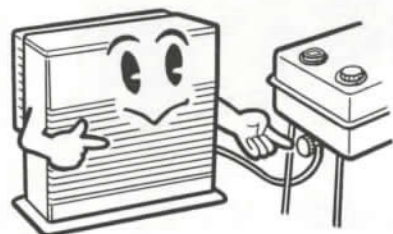
正面右下にあるセットレバーを2～3回押し下げてください。

●この操作を忘れますと、油が流れず、点火しません。

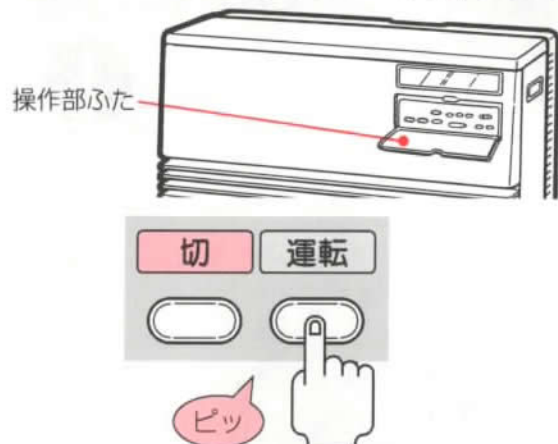
点火前の準備と確認(つづき)

■ストーブ周辺の確認

ストーブの周辺や屋外の給排気筒先端部の近く等に、燃えやすいものや危険物が置かれていないか、確かめてください。

■油もれの確認

ストーブの下(置台の上)、油タンク、ゴム製送油管やその接続部等に、油もれや油だまりがないか確かめてください。

点火(通常運転)

操作部ふたを開き、「運転ボタン」を押します。

「運転ランプ」が点灯し、「設定室温」「現在室温」が表示され、燃焼用送風機が運転します。

約3分後に点火します。

- 点火後約2分たちますと、「温風ファン」が回り、温風が出ます。
- 点火後の電磁ポンプの「コトコト」音は、しばらくすると消えます。

お願い

- 初めてお使いになるときは、油が定油面装置内に入るまで5分ほどお待ちください。
- 正しい点火操作を行っても点火せず、デジタル表示に［　　1］が表示されたり、点火してもしばらくして自然に消火し、デジタル表示に［　　5］が表示されているときは、定油面器に油が流入していないことが考えられます。
  「切ボタン」を押し、定油面器をセットしなおしてください。(9ページ参照)

室温の調節

このストーブは、設定室温が22℃になるようあらかじめセットしてあります。「運転ボタン」を押すだけで使用できます。

- 室温センサーの働きにより「強」から「微」燃焼をくり返して室温を調節します。
- 室温センサーが室温をキャッチし、マイコンで熱量をファジィ制御します。
  点火時の室温が低い(約10℃以下)ときは、点火後しばらく「強」燃焼より若干高い熱量で暖房し、お部屋の温度が設定室温に達したらしばらく設定室温より少し高めの温度で運転します。
  ［運転当初は、冷えている壁や床に熱が奪われ、設定した室温より肌寒さを感じるのを防ぐためです。］

設定室温を変えるときは

「デジタル表示」の「設定室温」を見ながら「上げボタン」または「下げボタン」を押し、お好みの室温にセットします。

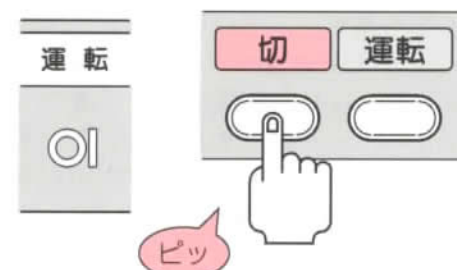
室温は8℃から32℃の範囲がセットできます。
「現在室温」は5℃から36℃の範囲が表示されます。

- 現在室温は部屋の温度の目安です。
  温度計とは一致しないことがあります。
- 「上げ・下げボタン」を交互に連続して押すと、消火することがあります。

「設定室温」は、一度セットすれば記憶しています。
電源プラグを抜いたり、停電した場合は、22℃に再セットされます。

消　火

「切ボタン」を押します。

「運転ランプ」が消灯し、約50秒ほどで消火します。

- 対流用送風機はストーブが冷えるまで回り続け、約3分後に自動的に停止します。
- 外出するときは、必ず消火してください。

⚠注意

長期間留守にするときは、必ず電源プラグを抜いてください。

- 絶縁劣化による感電や漏電火災のおそれがあります。

お願い

緊急時や長期間使用しないとき以外は、電源プラグをコンセントから抜かないでください。

- 燃焼中に電源プラグを抜きますと、のぞき窓がくもったり、異常点火することがあります。

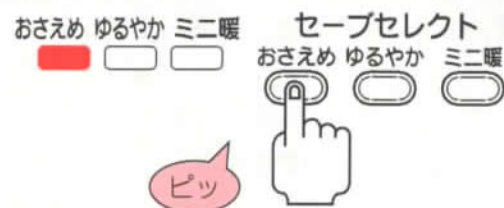
消火後再点火するときの注意

「切ボタン」を押した後、すぐに「運転ボタン」を押しても、消火操作後約3分間は運転が開始されません。

セーブセレクト運転のしかた

■おさえめ運転

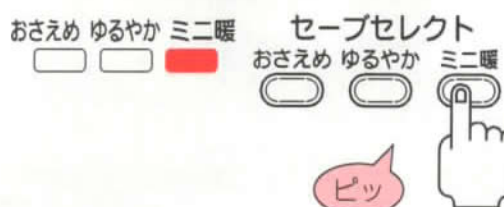
春先など外気温が高いときや小さな部屋でお使いのときは、「微」燃焼でも「設定室温」より上がることがあります。
このときは「おさえめボタン」を押してください。
「設定室温」より約3℃上がると自動消火し、「設定室温」まで下がると自動点火する「おさえめ運転」をして、室温の上がりすぎをおさえます。

- 「消火」の制御が加わるため、点火・消火の際に屋外に臭気が出ます。
  ご近所に迷惑がかかるときは「おさえめ運転」はおやめください。

現在室温が設定室温より高いときは「運転ボタン」を押しても点火しません。（運転ランプは点灯する）室温が下がれば自動的に点火します。

■ゆるやか運転

小さめの部屋などでご使用の場合に「おさえめ運転」を行ったとき、点火・消火が多く行われて、室温の変動（寒暖差）が大きくなったり、通常運転でも一時的に熱すぎることがあります。
このようなときは「ゆるやかボタン」を押してください。
「強・中」燃焼をカットした「弱・微」燃焼の制御となります。

■ミニ暖運転

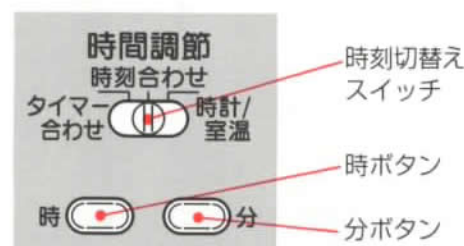
「ミニ暖ボタン」を押しますと、室内温度、設定室温に関係なく、「微燃焼」「微温風」で運転します。暖かさをおさえた暖房が得られます。

セーブセレクト運転を解除したいときは、それぞれのボタンをもう一度押してください。
また、各ボタンの操作により、次のような運転となります。

- 「おさえめ」または「ゆるやか」運転中に、設定されていない「ゆるやかボタン」または「おさえめボタン」を押すと、「おさえめ」と「ゆるやか」の組合わせ運転となります。
- 「おさえめ」または「ゆるやか」運転中に「ミニ暖ボタン」を押すと「ミニ暖」運転となります。
  「ミニ暖」運転が解除されると「おさえめ」または「ゆるやか」運転に戻ります。
- 「ミニ暖」運転中に「おさえめボタン」または「ゆるやかボタン」を押すと「ミニ暖」運転は解除され、押したボタンのモードで運転します。
- 一度「切ボタン」を押して消火すると、「ミニ暖」運転は解除されます。

タイマー運転

- おはようタイマー運転は、朝お目覚めのときや、あらかじめお部屋を暖めておきたいときに使います。
- おはようタイマー運転は、「現在時刻」「おはようタイマー運転時刻」の両方をセットしないと使用できません。
- おはようタイマー運転をするとセットした時刻にはお部屋が暖まっているように、前もって運転を開始します。
- おやすみタイマー運転は、１時間運転後に自動消火します。

現在時刻のセット方法

1 「時刻切替えスイッチ」を「時刻合わせ」にセットします。

2 「デジタル表示」を見ながら「時ボタン」「分ボタン」を押して、現在の時刻をセットします。
「午前」「午後」を確認します。

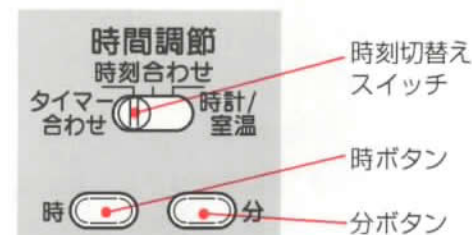
3 時刻を合わせたら「時刻切替えスイッチ」を「時計/室温」にセットします。
「コロン」が点灯し、時計が動き始めます。

午後８時30分の例

- 「時ボタン」「分ボタン」は、一度押すごとに１時間または１分ずつ進み、押し続けると連続して進みます。
- 長時間の使用で時計がずれることがあります。その場合は現在時刻をセットしなおしてください。

おはようタイマー運転時刻のセット方法

（部屋を暖めておきたい時刻をセットします。）

1 「時刻切替えスイッチ」を「タイマー合わせ」にセットします。

2 「デジタル表示」を見ながら「時ボタン」「分ボタン」を押して、お望みの運転時刻をセットします。
「午前」「午後」を確認します。

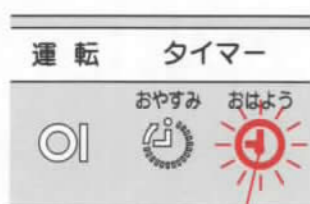
3 時刻を合わせたら「時刻切替えスイッチ」を「時計/室温」にセットします。
「デジタル表示」は現在時刻の表示に変わります。

午前6時30分の例

運転時刻は一度セットすると記憶されています。次回から同じ時刻に運転するときは、あらためてセットする必要はありません。

おはようタイマー運転の方法

「おはようタイマーボタン」を押します。

「おはようタイマーランプ」が点灯します。

おはようタイマーランプ

- デジタル表示に5秒間タイマー運転時刻(セット時刻)を表示します。
その後は現在の時刻を表示します。

セットした時刻に近づくと、セットした時刻にはお部屋が暖まっているように、セット時刻より前に点火し、運転します。

- 室温が6℃より低い場合は90分前より運転します。
室温が6℃以上の場合は、ファジィ制御によりセットした時刻の10～60分前に運転を始め、効率よく暖めます。
- セットした時刻になると「運転ランプ」が点灯し、「おはようタイマーランプ」は消えます。

- おはようタイマー運転を取消したいときは、「切ボタン」を、通常運転にしたいときは、「運転ボタン」を押してください。

おやすみタイマー運転の方法

「おやすみタイマーボタン」を押します。

「運転ランプ」「おやすみタイマーランプ」が点灯し、通常の点火が行われます。

おやすみタイマーランプ

1時間運転した後、自動消火します。

- 運転中に「おやすみタイマーボタン」を押すと、1時間後に自動消火します。
- 消火したいときは「切ボタン」を、運転を続けたいときは「運転ボタン」を押してください。
- 「おやすみタイマーボタン」を再度押すと、その時点から更に1時間運転します。

〈おやすみタイマー運転／おはようタイマー運転〉の同時使用方法

1 「おやすみタイマーボタン」を押します。

「おやすみタイマーランプ」「運転ランプ」が点灯し、通常の運転が始まります。

- 運転中でもこのセットは可能です。

2 「おはようタイマーボタン」を押します。

「おはようタイマーランプ」も点灯します。

3 1時間運転した後、自動消火します。

「おはようタイマーランプ」のみ点灯しています。

運 転　タイマー　おやすみ　おはよう

4 セット時刻より前に自動的に運転が始まり(「運転ランプ」が点灯する)、セット時刻にはお部屋が暖まっています。

「おはようタイマーランプ」はセットした時刻になると消えます。

運 転　タイマー　おやすみ　おはよう

停電や地震があったとき

安全装置が作動して運転を停止します。

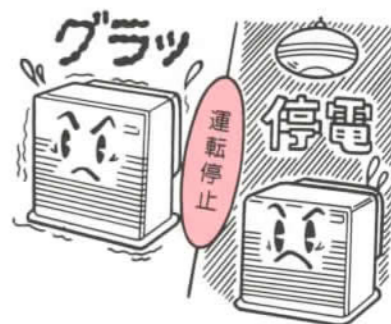
■停電があったとき

［電源プラグがコンセントから抜けたときも同じです。］

再び通電されても運転しません。
再点火はストーブが冷えてから行なってください。

- 暖かいうちに点火操作しますと、過熱防止装置が動作することがあります。
- 現在時刻、おはようタイマー運転時刻、設定室温、セーブセレクトの記憶が解除されます。
それぞれセットしなおしてください。

■地震(強い衝撃)があったときデジタル表示に［ 2 ］を表示します。

- 「切ボタン」を押すとデジタル表示は消えます。
- 再点火は対流用送風機が止まってから、周囲の安全を確認して行なってください。

安全装置

異常が生じたとき作動して自動消火します。
切ボタンを押し(表示は消えます)、処置をしてください。
原因がわからないときや、処置をして点火操作をしても運転しないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

安全装置	作動の原因	デジタル表示	処　　置
対震自動消火装置	●地震(約震度5以上)のとき ●強い振動や衝撃を受けたとき	2	本体と周囲に異常がないことを確かめる
過熱防止装置	●温風ファンガードにほこりがたまったり、カーテンなどでふさがれたとき ●前方に障害物がある	2	ほこりやカーテン、障害物などを取り除く
	●壁面との間が狭い		規定の間隔をとる
	●温風ファンの故障		修理を依頼する
停電安全装置	●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき	すべてのランプが消灯	再通電後、本体が冷えるまで待ってから点火操作する タイマーなどセットしなおす
点火安全装置 燃焼制御装置	●点火ミスのとき	1	もう一度点火操作する
	●油切れのとき	5	給油する
	●電磁ポンプが故障したとき	1 か 5	修理を依頼する
	●不良灯油を使用したとき		油タンクの取扱説明書にしたがって油抜きをする
	●定油面器がセットされていない		定油面器をセットする

日常の点検・手入れ

…➡

●日常の点検・手入れは必ず行ってください。
なお、化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書にしたがってください。
●点検・手入れは必ず消火して、ストーブが冷えてから行ってください。
●バーナ部、電気部品、対震自動消火装置などは、絶対に分解しないでください。
不完全な修理は危険です。点検・修理等には高度な技術を要しますので、必ずお買い上げの販売店にご依頼ください。

点検箇所	点検時期	点　検　内　容	処　　置
本体の周囲	毎日	●燃えやすい物が置いていないか ●カーテンが近づいていないか	●燃えやすい物は片づける ●カーテンが近づかないようにする
置台	毎日	●灯油が漏れてたまっていたり、灯油がにじんでいないか	●こぼれている灯油はふきとる ●灯油がにじんでいたり、漏れているときは使用をやめ、お買い上げの販売店に修理を依頼する
送風機ガード	1週間に1回	●ほこりなどが付着していないか	●背面カバー(上)を外し、掃除機などでほこりをとる
器具表面 温風吹出口	1週間に1回	●ほこりなどが付着していないか ●異物などがはさまっていないか	●掃除機などでほこりをとる ●異物などは割りばしなどでとる
油タンク	給油のとき	●水(ドレン)が溜っていないか	●水が溜っているときは、油タンクの取扱説明書にしたがい水を抜く
ゴム製送油管	給油のとき	●ひび割れや変形はないか ●接続部のゆるみはないか	●お買い上げの販売店に依頼して、交換してもらう。また、経年劣化するので3年に1回は新しいものと交換してもらう
給排気筒	1ヶ月に1回	●つまりはないか ●給排気筒先端の周囲に可燃物はないか ●給排気筒先端が袋等で覆われていないか ●給気、排気の接続部に外れやゆるみはないか	●異物やごみなどは取り除く ●周囲の可燃物は取り除く ●袋等は取り除く ●外れやゆるみのあるときは、使用をやめ、お買い上げの販売店に修理を依頼する

お願い　熱交換器、バーナ内の掃除、バーナ内に油が溜まったときの油抜き、定油面器のストレーナのお手入れ、点火ヒータの点検・交換などは、分解・手入れに高度な技術を要しますので、必ずお買い上げの販売店にご依頼ください。

給排気筒の点検

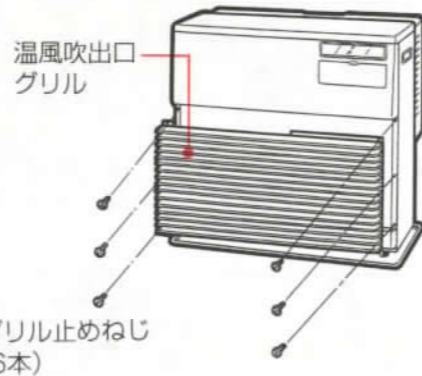
1 ときどき給排気筒および延長管の接続箇所が、正しくしっかりと接続されているか、つまりはないかを確認してください。
接続箇所が外れていますと、排ガスが漏れて非常に危険です。
もし不具合がありましたら、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

■チェックポイント
- 排気管おさえはついていますか。
- 抜け止め金具はついていますか。

■チェックポイント
- 接続部が外れている。
- におうようになった。
- まわりがすすけてきた。

2 ストーブを都合により動かした場合(畳替え、ジュータンのはり替え、収納および再据付け時等)には必ずお買い上げの販売店に点検および再据付けを依頼してください。

異物が入ったときの分解方法

ストーブの内部に異物などが入りますと、故障や火災の原因となります。
特にお子様が温風吹出口グリルより紙やプラスチックなどを入れることがありますので、じゅう分注意してください。
もし異物が入ったときは、消火して本体がよく冷えてから電源プラグを抜き、温風吹出口グリルを外して、取り除いてください。
- 温風吹出口グリルは、左右を止めている止めねじ(6本)をドライバーで外せば、取外せます。

定期点検

長期間ご使用になりますと、万一の事故を未然に防止するためと、快適にご使用いただくために機器の点検が必要です。1シーズンに1回程度シーズンの終了後などにお買い上げの販売店、または修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL03-3499-2928)で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店等に点検依頼されることをおすすめします。点検・修理についての費用など詳しいことは販売店にご相談ください。

故障・異常の見分け方と処置方法

燃焼のぐあいが悪いときは、つぎの表を参考にして処置してください。
ご不審な点がありましたらただちに使用をやめて、お買い上げの販売店にご相談ください。

現象 / 原因	油が出ない	点火しない	炎が大きくならない	スス(煙)が出る	燃焼音がはげしい	油が漏れる	対流用送風機が回らない	炎が安定しない	点火後しばらくして消火した	処置方法	参照ページ
油タンクに油がない	●	●							●	灯油(JIS1号灯油)を給油する	9
定油面器の故障	●	●				●			●	販売店に修理を依頼する	—
定油面器がセットされていない	●	●							●	定油面器セットレバーを2～3回押し下げる	9
油配管の締付けが不完全	●	●	●			●				販売店に依頼して、確実に締付けてもらう	—
給排気筒が不完全、排気管または給気ホースが外れている		●	●	●	●			●		販売店に依頼して、正しく設置あるいは取付けてもらう	18
電源プラグやスイッチが不完全	●	●		●			●			販売店に修理を依頼する	—
停　電	●	●					●		●	通電するまで待つ	15
燃焼用送風機の故障		●		●	●			●	●	販売店に修理を依頼する	—
燃焼用送風機の羽根にごみやほこりが付着している				●	●			●		販売店に修理を依頼する	—
対流用送風機の故障							●		●	販売店に修理を依頼する	—
電磁ポンプの故障	●	●	●	●	●			●	●	販売店に修理を依頼する	—
点火ヒータの故障		●								販売店に修理を依頼する	—
制御部品の故障	●	●	●	●			●		●	販売店に修理を依頼する	—
油タンクの据付け高さが低い	●	●						●	●	ストーブ本体と同じ高さの床面に置く	30
ゴム製送油管に空気が入っている	●	●						●	●	送油管を振って空気を抜く	24

故障かなと思ったら

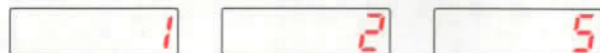
次のような現象の場合は異常ではありません。下表を参考にしてもう一度確認してください。

現象	確認事項および理由
「運転」操作しても運転しない	●バーナを予熱する方式ですので、予熱時間が約３分必要です。 ●初めて使用するときや油抜きをした後は、灯油がじゅう分まわるまで約５分必要です。
停電等により電源が一時切れ、再通電しても運転が再開しない	自動的に運転は再開しない構造になっています。 ストーブが冷えていることを確認してから運転してください。 (気付かないような瞬時の停電でも運転は再開しません)
おはようタイマー運転をしたが、セットした時刻になっても点火しない	●運転ボタンを押して、運転するか確かめてください。 ●途中で停電があり、おはようタイマーのセットが解除されたためです。点火する際は運転ボタンを押してください。
点火時や消火時にキシミ音がする	バーナ部、熱交換器等が膨張、収縮する音で異常ではありません。
初めて点火したとき、においが出る	塗料などの焼けるにおいです。においがなくなるまで（強燃焼で約30分ほど）窓をあけて運転してください。
運転中、ストーブが消火した(運転ランプは点灯している)	室温センサーが働いて消火したものです。 室温が下がれば再び点火します。
室温が常に一定ではない	室温調節は、燃焼の「強・中・弱・微・消火」によって行いますので、室温は多少変動します。
好みの室温になりにくい	設置条件などにより、室温センサー部の温度とお部屋の温度に違いがあるためです。室温センサーの位置を移動してください。

「デジタル表示」に故障・異常を数値で表示し、お知らせします。

E 00　E 01　E 04　E 05　E 06

が表示され、ブザーが鳴ったときは故障です。
お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
なお、異常表示はメモして修理を依頼する際にお知らせください。

1　2　5

が表示されたときは異常状態です。
16ページも参考にして処置してください。

表示	原因	処置方法
1	点火不具合 ●初めての使用やシーズン最初の使用などで、灯油がゆきわたっていない。 ●不良灯油を使用した。	●もう一度点火操作する。 ●不良灯油を使用したときは、販売店に相談する。
2	●対流用送風機や温風吹出口がふさがれて安全装置(過熱防止装置)が作動した。 ●強い衝撃や振動が加わったため、安全装置（対震自動消火装置）が作動した。	16ページを参照して原因を取り除き、本体や周囲に異常がないことを確かめる。
5	燃焼中の失火 ●灯油が供給されていない。	油タンクの油量を確認する。

「切ボタン」を押すと、故障・異常の表示は消えます。

部品交換のしかた

長期間の使用による部品の劣化などで部品交換が必要なときは、お買い上げの販売店・または最寄の「日立家電品ご相談窓口」にお問い合わせいただき、(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL03-3499-2928)で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店などに依頼されることをおすすめします。

●バーナ部、電気部品、対震自動消火装置などは、絶対に分解しないでください。
●交換部品（消耗部品）は、必ず日立温風クリアヒーター用の純正部品をご使用ください。

保　管（長期間使用しない場合）

シーズンオフには、次のようなお手入れをして、設置したままで保管してください。

1 保管前に

特別な理由のない限り、ストーブを取外しておしまいにならないでください。
やむをえず取外した場合は、来シーズンは必ずお買い上げの販売店に依頼して、給排気筒などの接続部を傷めないよう、確実な据付けを行ってください。

2 ストーブの清掃

●ストーブの外側の汚れやほこり等を、きれいに掃除してください。
●ストーブの内部を清掃されるときは、必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

3 油の除去

油タンクはからにして、内部にごみや水(ドレン)が残らないようきれいな灯油でよく洗い、乾燥させてください。ごみや水が入ったまま保管しますと、サビの発生や穴あきの原因となります。

4 保　管

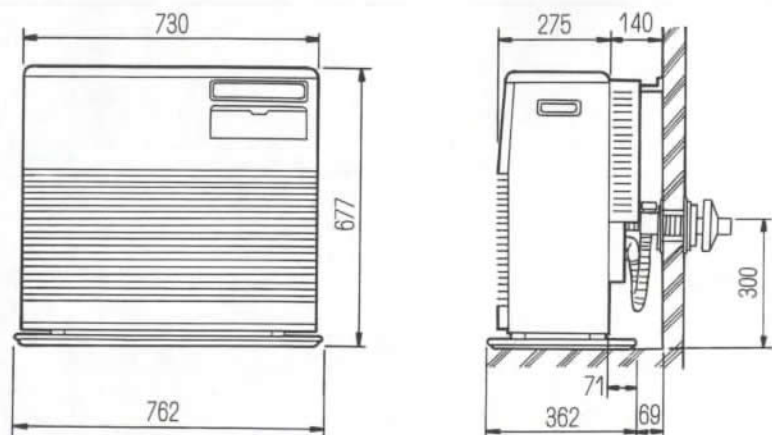
●電源プラグをコンセントから抜いてください。
●ストーブには、ほこりなどが入らないようなカバーをかけて保管してください。
なお、別売部品に本体カバー(KHC-90)がありますので、ご利用ください。

仕　様

形式の呼び		KH-J90
種類		ポット式・強制対流形・強制給排気形
点火方式		電気点火
使用燃料		灯油(JIS 1号灯油)
暖房出力	最大	9.31kW・33,530kJ/h
	最小	3.35kW・12,060kJ/h
発熱量 熱効率	最大	40,000kJ/h　熱効率：83.8%
	最小	14,080kJ/h　熱効率：85.7%
燃料消費量	最大	1.08L/h
	最小	0.38L/h
外形寸法		高さ 677mm　幅 762mm　奥行 362mm（置台を含む）
質量(重量)		37kg
電源電圧および周波数		100V　50/60Hz
定格消費電力		最　大：860/860W(点火初期に短時間発生) 点火時：315/315W　　燃焼時： 70/ 75W
給排気筒の型式の呼び		KT-3S
給排気筒の呼び径		D40
給排気筒の壁貫通部の孔径		65～70mm
排気温度		260℃以下
電流ヒューズ		2A・10A
安全装置		●対震自動消火装置　●停電安全装置　●点火安全装置 ●過熱防止装置　●燃焼制御装置
附属品		置台・背面カバー(一式)・本体固定金具(2)・エアダンパー(2) 外フランジ・フランジパッキン・ゴム製送油管(締付金具2個付) ねじ(20mm×5・8mm×2)・絶縁シール・薄壁用ねじキャップ

●給排気筒接続部Oリング：JIS B 2401　4種D　P39

外形寸法図

単位：mm

保証とアフターサービス（必ずお読みください）

保　証　書（別添）

保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

●保証期間は、お買い上げの日から1年です。

修理を依頼されるときは 出張修理

修理を依頼される前に「故障・異常の見分け方と処置方法」(19ページ)および「故障かなと思ったら」(20ページ)を調べていただき、なお異常のあるときは、故障や事故防止のため、ご使用を中止し、コンセントから電源プラグを抜いて必ずお買い上げの販売店にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

品名	日立温風クリアヒーター
形式の呼び	KH-J90
お買上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も合わせて
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

※形式の呼びは、本体側面の銘板に表示されています。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間がすぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

補修用性能部品の保有期間

密閉式石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は、製造打切り後7年です。
補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

修理料金のしくみ

修理料金＝技術料＋部品代＋出張料です。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費・技術教育費・測定機器等設備費・一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途駐車料金をいただく場合もあります。

転居されるときは

ご転居によりお買い上げの販売店のアフターサービスが受けられない場合は、前もって販売店にご相談ください。ご転居先での日立の家電品取扱店を紹介させていただきます。
なおこの製品は再据付工事が必要となりますので、転居先の販売店にご相談、ご用命ください。

ご不明な点や修理に関するご相談は

点検・修理・再据付けに関する相談並びにその費用など、ご不明な点は、お買い上げの販売店または別紙「ご相談窓口一覧表」の窓口にお問い合わせください。

据付け

■据付け場所の選定および標準据付け例

- ストーブの据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準、石油燃焼機器の設置基準等による規制があります。
  工事編の「安全のため必ずお守りください」をお読みになり、販売店または据付業者とよく相談してください。
- 標準据付け例については26ページを参照してください。

■据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度工事編の「安全のため必ずお守りください」をお読みになり、工事編に記載されているとおり据付けられているか確認してください。

■試運転

試運転は販売店または据付け業者とご一緒に必ず行ってください。

1 運転準備（詳しくは、8〜10ページを参照してください。）

❶油タンクに灯油（JIS１号灯油）を給油し、油タンクの送油バルブを開いてください。
❷ゴム製送油管内に空気だまりがあると油が流れません。
一度ゴム製送油管を振って空気抜きをしておいてください。
❸電源プラグがコンセントに差し込まれているか確認してください。
❹右下にある定油面器セットレバーを２〜３回押し下げてください。
❺ストーブの下部（置台の上）やゴム製送油管、およびその接続部等に、油漏れや油だまりがないか確かめてください。

2 運　転

❶運転操作は、10〜15ページを参照して行ってください。
❷初めてお使いになるときは、油が定油面器に入るまでに５分ほどかかりますので、点火するまでに多少時間がかかります。
❸試運転時、塗料の焼けるにおいがすることがあります。
30分ほど窓をあけて運転してください。
❹点火後、約２分たちますと、自動的に対流用送風機が回って温風が出ます。
❺設定室温を変え、炎の大きさが変わるかを確かめてください。

3 消　火

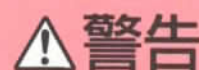
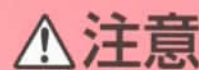
切ボタンを押して消火操作後は約50秒で火が消え、しばらくして（約３分）対流用送風機が止まることを確かめてください。

〔以上で試運転は完了です。〕

工事説明書（工事編）

据付け工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据付けてください。
なおこの説明書は必ず保存してください。

安全のため必ずお守りください…➡

正しく、安全に据付けていただくために、この説明書では次のように区分して表示しています。その内容をよく理解したうえで据付けてください。

⚠警告	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡・重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示について	この絵表示は「禁止」事項を示しています。	この絵表示は必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

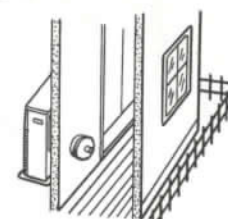
据付けや移動は販売店へ依頼すること

- ご自分で据付けをされ不備があると、感電や火災の原因になります。

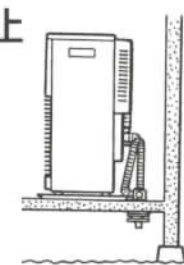
法令の基準を守る

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る。

屋内給排気禁止

必ず屋外に排気してください。

- 排ガスが室内に充満して危険です。

床下給排気禁止

必ず屋外に排気してください。

- 排ガスが室内に漏れて危険です。

外れ危険

排気管・給気ホースと給排気筒は確実に接続し、しっかりと固定してください。

- 風・振動・衝撃などで外れたりすると、運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

給排気筒トップ閉そく危険

積雪が多いときに給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。

- 運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。